

ジャパンカップ出走予定外国馬プロフィール

◆アイダホ(IDAHO) = アイルランド

牡 4 歳・鹿毛(アイルランド産・2013 年 3 月 14 日生まれ)

父:Galileo = 母:Hveger(母の父:Danehill)

馬 主 : M. テイバー氏、D. スミス氏、J. マグニア夫人

調教師 : A. オブライエン

騎 手 : R. ムーア

戦 績 : 通算 15 戦 3 勝、2 着 2 回、3 着 3 回

総獲得賞金: 約 1 億 2,370 万円

主な戦績: '17 ハードウィックスステークス(英 G2) 1 着

'16 グレートヴォルティジュールステークス(英 G2) 1 着

'16 愛ダービー(愛 G1) 2 着

'17 キングジョージ VI 世 &クイーンエリザベスステークス(英 G1) 3 着

'16 英ダービー(英 G1) 3 着

3 か国で G1・6 勝を挙げているハイランドリールの 1 歳下の全弟となるアイダホは今年、調教師の年間 G1 最多勝利記録を塗り替えたアイルランドのエイダン・オブライエン調教師の管理馬です。生産はアイルランドのアヴェジャール・シンジケートで、2014 年 10 月のタタソールズ・セールに上場されて 75 万ギニー(約 1 億 3,620 万円)で落札されました。馬主はクールモアの所有馬の多くを共有する M. テイバー氏、D. スミス氏、J. マグニア夫人。勝負服は凱旋門賞馬モンジュールと同じブルー地の胸にオレンジボール、ブルー地の袖にオレンジストライプです。

父のガリレオはイギリス・アイルランドで通算 14 回チャンピオンサイアーに輝いたサドラーズウェルズの後継馬であり、自身も今年 9 度目の王座を確定的にするヨーロッパの大種牡馬。最近ではフランケルの父として紹介されることも少なくなく、オブライエン厩舎が今年挙げた G1 勝ちの 2/3 近くが同馬の産駒によるものです。母のアヴェジャールはシャトルサイアーで最も成功したデインヒルの娘で、2005 年の豪 G1 シュウェップスオックス 3 着馬。

2 歳の 10 月 13 日に地元のカラ競馬場の未勝利戦(芝 1,600m)でデビューしたアイダホは後方から進出して 2 着馬に 3 馬身半差をつけて優勝。2 番人気で、勝ちタイムは 1 分 42 秒 4 で、幸先の良いスタートを切りました。鞍上は現調教師のジョセフ・オブライエン。2 戦目はフランスに遠征して 11 月 1 日の G1 クリテリウムドサンクルー(サンクルー、芝 2,000m)にムーア騎手を迎えて 1 番人気で出走。直線伸びず勝ったロビンオブナヴァンから 5 馬身半差の 4 着に終わり、2 歳時は 2 戦 1 勝でした。

3 歳はダービーを視野に入れた王道を歩み、地元レパーズタウン競馬場で行われるクラシックへ向けたレースを 2 戦。4 月 10 日の G3 バリーサックスステークス(芝 2,000m)はオドノヒュー騎手で後方から見せ場を作りハーザンドの 1 馬身 1/4 差の 2 着、5 月 8 日の G3 ダービートライアルステークス(芝 2,000m)はヘファナン騎手で後方から差を詰めてムーンライトマジックの 1 馬身 3/4 差の 3 着でし

た。勝利には至りませんでしたが、2 戦とも勝ち馬から 2 馬身以内でした。

そして、迎えた 6 月 4 日、エプソムの G1 英ダービー(芝 2,410m)もヘファナン騎手を鞍上に参戦。単勝 15 倍は 16 頭立ての 7 番人気タイと伏兵扱いでしたが、直線半ばで先頭に立って内ラチ沿いに脚を伸ばし、残り 200m 地点で勝ったハーザンド、その後さらにその外から迫った同厩舎のユーエスアーミーレンジャー(1 番人気)にかわされたものの 2 馬身 3/4 差の 3 着に健闘しました。この好走によって 3 週後の G1 愛ダービー(カラ、芝 2,400m)ではムーア騎手が手綱を握ってハーザンドに次ぐ 2 番人気で出走。直線で先頭に立ったハーザンドに外から並びかけて残り 200m をびっしりと叩き合う見応えのある競馬で、半馬身差 2 着となりました。ダービー 2 戦はともに稍重馬場でした。

次いで 8 月 17 日の G2 グレートヴォルティジュールステークス(ヨーク、芝 2,400m)はヘファナン騎手に戻って後方を進み、残り 200m で馬群を捌いて優勝。デビューから 7 戦目で待望の重賞勝ちを飾りました。1 馬身 3/4 差の 2 着に同厩舎でペースをつくったハウジズオブパーラメント。良馬場の勝ちタイムは 2 分 29 秒 4 でした。1 番人気に応えたヘファナン騎手はアイダホの成長ぶりを嬉しそうに語り、次のステップとなる G1 制覇を視野に入れましたが、次走で思わぬアクシデントが起こります。9 月 10 日の G1 英セントレジャー(ドンカスター、芝 2,920m)は単勝 1.67 倍という圧倒的な支持が物語るようにアイダホにお膳立てされたようなレースでしたが、馬群が密集した残り 600m 地点で外に出ようとしてバランスを崩してヘファナン騎手が落馬して競走を中止しました。

幸い馬は無事だったことで陣営は 10 月 16 日にカナダ・ウッドバイン競馬場で行われた G1 カナディアンインターナショナル(芝 2,400m)への遠征を決定。ムーア騎手で単勝 2.4 倍の 1 番人気に推されましたが、出遅れて後方からとなり、直線もじわじわとしか伸びず勝ったイラプト(ジャパンカップで 2015 年 6 着、昨年 14 着)から 2 馬身半差の 5 着に敗退。この年は 7 戦 1 勝、2・3 着各 2 回で休養に入りました。

4 歳になった今年は 6 戦 1 勝。イギリスの 2,400m 戦線の幕開けとなる 6 月の G1 コロネーションカップ(エプソム、芝 2,410m)はヘファナン騎手騎乗で 7 番人気。軽快に逃げた兄ハイランドリールから 7 馬身 1/4 離された 6 着でしたが、これを使って一変。中 2 週で臨んだロイヤルアスコット開催の G2 ハードウィックスステークス(芝 2,400m)ではヘファナン騎手が果敢に先行して残り 200m を切って先頭に躍り出ると、外から差を詰めたバルサンティに半馬身差をつけ押し切りました。良馬場の勝ちタイムは 2 分 28 秒 9 です。

通算 3 勝目から約 1 カ月の間隔を取って臨んだ 7 月 29 日の G1 キングジョージ VI 世&クイーンエリザベスステークス(アスコット、芝 2,400m; 稍重)はヘファナン騎手騎乗の 4 番人気で、残り 200m から独走態勢に入った 3 歳女王のエネイブルに突き放されて 3 着でした。しかし、兄ハイランドリールの後ろにつけ、直線半ばでは他馬に寄られながらも伸びて 2 着のユリシーズ(この後英インターナショナルステークス優勝、凱旋門賞 3 着)とは 3/4 馬身差、4 着の兄には 4 馬身先着しました。

その後米国へ遠征。8 月 26 日、サラトガ競馬場の G1 ソードダンサーズステークス(芝 2,400m)にムーア騎手で単勝 2.45 倍の 1 番人気で臨みましたが、先行して伸びず、地元のサドラーズジョイから 4 馬身差のブービー 6 着に終わりました。ヨーロッパに戻って出走した 10 月 1 日の G1 凱旋門賞(シャンティイ、芝 2,400m)は 10 番人気でヘファナン騎手のもと先頭でペースを作りますが、ここも女王エネイブルの前に完敗。ジャパンカップに 2 年連続で出走するイキートス(7 着)にハナ差の 8 着でレースを終えました。

この後はアメリカの G1 ブリーダーズカップターフという選択肢もありましたが、連覇のかかった兄の出走が決まっていたことと、小回りのデルマーの芝コースを嫌って回避。2 年連続でウッドパインのカナディアンインターナショナルに銚先を向けました。前走から中 1 週のここはムーア騎手で単勝 3.3 倍の 1 番人気になったアイダホですが、重馬場の中、後方から差を詰めて 4 着。前年から着順を一つ上げました。



2017 年ハードウィックスステークス

(c) racingpost.com/photos

ジャパンカップ出走予定外国馬関係者プロフィール

■ アイダホ (IDAHO)

● 馬主：M. テイバー氏、D. スミス氏、J. マグニア夫人 (Michael Tabor, Derrick Smith, Mrs John Magnier)

スーザン・マグニア夫人は、故ヴィンセント・オブライエン調教師（現在のクールモアを背負って立つエイダン・オブライエン調教師とは姻戚関係なし）の愛娘で、クールモア牧場の経営者、ジョン・マグニア氏の夫人。ジョン・マグニア氏はイギリス人のロバート・サングスター氏と共同で 1975 年にクールモア牧場を購入し、世界最大級の牧場へと導いた功労者。サングスター氏が去ると、マグニア氏はイギリス出身のマイケル・テイバー氏を新たなパートナーに世界戦略を進める。その後、イギリス人のデリック・スミス氏がメンバーに加わり、クールモアの所属馬はマグニア夫人、テイバー氏、スミス氏の 3 人で共同所有の形を取ることが多い。

クールモアグループはアイルランドを拠点に、アメリカとオーストラリアに支場を持つ。その屋台骨を支えた種牡馬にはサドラズウェルズとデインヒルがおり、現在はガリレオ、モンジュー、ハイシャパラルらが数多くの G1 馬を輩出。アイルランドでの所有馬は大半をエイダン・オブライエンが手掛け、フランスではアンドレ・ファールブル、アメリカではトッド・プレッチャーら著名調教師へ預託される。

● 調教師：エイダン・オブライエン (Aidan O'Brien)

1969 年 10 月 16 日、アイルランドのウェックスフォード州生まれ、調教師の家庭に育ち、ジェームズ・ボルジャー調教師に師事して 23 歳で障害調教師となり、1993/94 年シーズンから 5 季連続でアイルランドのリーディングタイトルを獲得。また、アマチュア障害騎手としても 1993/94 年にリーディングに輝いている。クールモアの専属調教師となったのは、ヴィンセント・オブライエン調教師の引退を受けてのことで、平地でもアイルランドで 1997、99、2001、04、08～16、17 年に、イギリス（賞金順）で 2001、02、07、08、16、17 年にリーディングタイトルを獲得。アンマリー夫人はアイルランドの障害リーディングトレーナー、長男ジョセフは騎手から調教師に転身して今年のメルボルンカップを優勝、さらにその弟のドナチャは昨年のアイルランドの見習騎手リーディングで、兄の管理馬で昨年のモイグレアスタッドステークスを勝っている。

初の G1 勝利は 1996 年にデザートキングで制したアイルランドのナショナルステークス。ここまでクラシックタイトルだけでも英 2000 ギニー 8 勝、英 1000 ギニー 4 勝、英ダービー・英オークス 6 勝、英セントレジャー 5 勝、愛 2000 ギニー 11 勝、愛 1000 ギニー 7 勝、愛ダービー 12 勝、愛オークス 5 勝、古 2000 ギニー 4 勝、仏 1000 ギニー 1 勝と各国で数多く獲得。さらに、“キングジョージ” 4 勝、凱旋門賞 2 勝、ブリーダーズカップターフ 6 勝のほか、イタリア、カナダ、アラブ首長国連邦、香港、オーストラリアなど世界各国で 300 以上の G1 タイトルを手中にしている。

今年はチャーチルで英・愛 2000 ギニー、ウィンターで英・愛 1000 ギニー、ウイングスオブイーグルスで英ダービー、ハイランドリールでコロネーションカップとプリンスオブウェールズステークス、カプリ

で愛ダービーを制するなど順調にタイトルを積み重ね、10月の英チャンピオンズフィリーズ&メアズステークスをハイドレンジアで制して、アメリカの故ロバート・フランケル調教師が2003年に樹立したシーズンG1最多勝記録の25勝に並ぶ。そして、同月28日のレーシングポストトロフィーを日本産のディープインパクト産駒サクソンウォリアーで勝って記録を更新、さらに11月のブリーダーズカップジュベナイルターフをメンデルスゾーンで制して27勝まで記録を伸ばしている。

これまで日本にはジャパンカップで管理馬を2頭出走させ、2004年パワーズコート、2010年ジョシユアツリーとともに10着。

● 騎手：ライアン・ムーア (Ryan Moore)

1983年9月18日、イギリス・バークシャー生まれ。父ギャリーは元障害騎手で引退後調教師、祖父も元調教師、弟のジェイミーは障害騎手として活躍している。2000年5月に障害戦でデビューして初勝利を飾ると、2003年に見習騎手リーディングのタイトルを獲得。その後は2004～14年までトップ7圏内につけ、2006、08、09年にリーディングタイトルを獲得した。

2006年にマイケル・スタウト調教師管理のノットナウケイトで英インターナショナルステークスを制してG1初勝利。以降、クラシックは2010年ワークフォース、13年ルーラーオブザワールドで英ダービー2勝、10年スノーフェアリー、16年マインディングで英オークス2勝、さらに英2000ギニー2勝、英1000ギニー3勝を挙げているほか、“キングジョージ”は09年コンデュイット、16年ハイランドリールで2勝。国外でも2010年ワークフォース、16年ファウンドによる凱旋門賞2勝を始め、08・09年コンデュイット、13年マジシャン、15年ファウンドでブリーダーズカップターフ4勝、プロテクショニストとのコンビで勝った14年メルボルンカップなど世界各国でG1タイトルを量産している。

近年主戦を務めるエイダン・オブライエン厩舎の所属馬で今年もG1戦線を席卷し、チャーチルで英・愛2000ギニー、ウィンターで愛1000ギニーなどG1・3勝、ハイランドリールでプリンスオブウェールズを含むG1・2勝、カプリで英セントレジャーを初制覇するなど、4か国でG1を20勝。イギリスでは452戦105勝でリーディング3位だった。

2004年の京王杯スプリングカップで初来日し、10・11年にスノーフェアリーでエリザベス女王杯を連覇。2010年にはワールドスーパージョッキーズシリーズで総合優勝を果たした。また、近年は短期免許を取得して日本でも騎乗しており、2013年にジェンティルドンナでジャパンカップ、アジアエクスプレスで朝日杯フューチュリティステークスを、モーリスで15年マイルチャンピオンシップ、16年天皇賞(秋)を優勝。11月12日現在、JRAでは重賞12勝を含む通算517戦98勝。日本馬との活躍は国内に留まらず、ジェンティルドンナで2014年ドバイシーマクラシック、モーリスで15年香港マイル、16年香港カップ、リアルスティールで16年ドバイターフを勝利している。